

生ごみ堆肥のつくり方

密閉容器(専用バケツ)でのつくり方

必要なもの

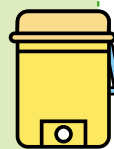
密閉容器(専用バケツ)

…発酵液を取り出せるようコック(蛇口)が付いたものが便利。加賀市女性協議会・幸徳園・ホームセンターで販売されている。

ボカシ

…幸徳園・JAやホームセンターで販売されている。

生ごみ



ボカシ



ステップ1 密閉容器(専用バケツ)での処理過程

①生ごみとボカシを入れる

生ごみは十分に水を切るとともに、速やかに密閉容器(専用バケツ)に入れ、ボカシをふりかけフタをする。

②発酵液を取り出す

生ごみを投入してから1週間程度で、バケツの底に発酵液が、たまり始めます。(気温等にもよります。)毎日発酵液を取り出す。(発酵液の使い方を参考に使用してください。)容器に生ごみが8分目になるまで、①から②の行程を繰り返す。

③発酵を続ける

さらに直射日光を避け、密封し、1(夏)~2(冬)週間発酵を続ける。漬け物のような臭いになれば、できあがりです。

※できたものを「ボカシあえ」といいます。

生ごみの形はほとんどかわりません。漬け物のような臭いがします。

生ごみは水切りし、新鮮なうちに投入



ボカシをふりかける



容器の8分目ほどまで投入を継続



直射日光を避け 1~2週間発酵継続



毎日発酵液を取り出す
※発酵液は液肥などに利用可能



ステップ2 土と合わせ熟成させる

ステップ1の「ボカシあえ」は下記により土と混ぜることによって、土壌微生物などの働きにより急速に分解します。

数週間おくと分解し堆肥として使えます。更に長くおくことにより形がなくなり完熟の堆肥となります。

●庭や畑のうねの間に埋める方法

①樹木の近くや野菜のうねの間等の土に穴を掘りボカシあえを埋める。

②ボカシあえは土とよく混じるように入れ、土をかぶせる。

③数週間後には分解し堆肥となっている。

※直接植物の根にふれないように離して埋める。

●プランターを活用する場合

①プランターの底に赤玉土などのごろ土を数cm程度の厚さに入れる。

②ボカシあえと土(園芸用などの土)を入れ、良く混ぜる。

③更に土をかぶせ、適度な水分を保つため、ビニールなどで覆う。

④1月以上経過すると、ボカシあえは分解し、黒い堆肥となり、種や苗を植えることが、出来るようになります。

土とよく混ぜ合わせます
※堆肥になる期間は気象や土壌条件により変わります。

うね間や株間に土と混ぜ埋める

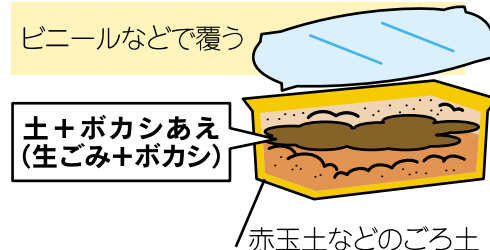
土+ボカシあえ
(生ごみ+ボカシ)



ビニールなどで覆う

土+ボカシあえ
(生ごみ+ボカシ)

赤玉土などのごろ土



ポイント 土をしっかりとかぶせることにより、虫の侵入や臭いの防止になります。

発酵液の活用について

発酵時にでる液(発酵液)は、500倍程度に薄め、トイレやお風呂場などの配水管に流すと、ぬめりや臭いを取り除きます。また、1000倍程度に薄め、植物の液肥として活用することが出来ます。

生ごみ堆肥 のつくり方

コンポスト でのつくり方

ステップ1 容器の設置

①場所を決める

水はけの良い土の上で、日差しの良い場所が適している。

②容器を設置する

掘り返した穴に容器を設置し、10～15cmの深さまで埋める。

必要なもの

コンポスター

…大きさが130ℓ～240ℓ位まで、様々な大きさのものがある。JAやホームセンターで販売されている。



ボカシ

…幸徳園・JAやホームセンターで販売されている。

ボカシ

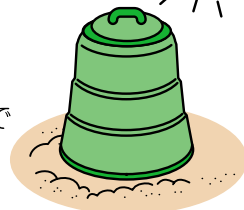
生ごみ



コンポスターを設置する場所の確保



※日当たりと水はけの良い土の庭など。コンポスターの底の直径が60～100cm程でそれを設置する場所を確保する必要がある。



ステップ2 生ごみ・庭ごみ等の投入

容器に投入できるのは、台所から出た生ごみ、庭ごみ(落ち葉や雑草)等の有機質のごみです。

①生ごみ(庭ごみ等)の投入

生ごみを投入する場合は、水切りを十分に行い、新鮮な内にコンポスターへ投入する。腐敗してしまった生ごみは、悪臭の原因になります。

②発酵促進物の投入

生ごみ投入時にボカシを入れる。

③土と層との交互積み重ね

1～2週間程度生ごみを投入後、土を2～3cmほど入れる。

①②③を交互に積み重ねる。

④好気的な状態の維持

スコップなどで月に1～2回、容器の中身をかき混ぜる。

ボカシなど発酵を促進させるものを入れる。

ボカシ



土を時々2～3cmの厚さに層状に入れる。

※適度な水分が成功の秘訣(握って湿る程度)



シャベルなどでかき混ぜ好気性を保つ。



※好気性を保つことにより、悪臭を少なくするとともに発酵が促進されます。

ステップ3 生ごみ堆肥を熟成させる

容器がほぼいっぱいになったら、生ごみの投入を止め、生ごみ堆肥の熟成を行う。

①コンポスターの引き抜き

生ごみ堆肥を残して、外側の容器のみを引き抜く。(非常に臭いがする場合があるので、注意する。)引き抜いたコンポスターはステップ1のとおり新たな場所に設置し、ステップ2のとおり生ごみを投入し続ける。

②生ごみ堆肥を覆う

露出している生ごみ堆肥を土やポリシートなどで覆う。生ごみ堆肥が熟成する間の虫の侵入や臭いを防ぐとともに、熟成を早めることができる。

③生ごみ堆肥の切り返し

完熟するまで、1月に1～2回スコップで、切り返し(生ごみ堆肥を上下入れ替えること)を行う。



★完全堆肥

生ごみ堆肥が黒くなり、いやな臭いがしなくなったら完熟堆肥のできあがりです。

※短い場合は数ヶ月、さらに、2年程度おくことで十分に堆肥化します。完熟までの時間は、生ごみの質や量、容器内の手入れ、土や天候などによって異なります。